

タイトル「現地を訪問して思うこと」

ツアー参加者氏名：大石育三

卒業年：1967年 卒業学部：経済学部

参加コース：A 福島コース

3.11の東日本大震災後に、宮城県・岩手県の被災地は訪問したことがあるが、今回、初めて福島県を訪問することが出来ました。東京発やまびこ45号で郡山駅にて合流して、一路浪江町に向かいました。震災時に21,434人の浪江町は、約1,000事業所があったが、現在22事業所しか営業していない状況であった。私の職業柄、今回の東北応援ツアーでは、風評被害が出ている福島県の2事業所を報告したい。

① スパリゾートハワイアンズ：常磐興産(株)下山田俊博業務改革室長が3.11の対応と再開までを講演してくれました。震災時に2,500人の来店客がいたが、翌日にバス18台で東京に帰らせることが出来た。また、事業再開までの9月11日まで、広野町民360人の避難先として受け入れて、町民との貴重な体験を通じて絆が

強くなったようだ。地元の企業が感謝の気持ちを忘れないことと地域の発展を通じて貢献する社風が感じられた。このような会社なら、株価 1,500 円も惜しくもなく協力してやりたいと思う。

② あかい菜園(株)：船生典文代表取締役が農園を案内してくれた。6年前にミニトマトを開発して 24,000 株を生産販売しているが、3.11以降風評被害で売上が激減していた。震災前の福島県の農業産出額は 2,505 億円であったが、平成 23 年には 1,851 億円と 26.1% の減少となっていることから、復興するには、被災地の農産物を購入することが大きな励みにつながることを思った。今後も、東北応援ツアーに参加して被災地を応援したいと思う。

